

作文部門

入賞者発表

■総評■

今年は、低学年にきらりと光る作品が集中したようです。きめ細かい描写力で、そのときの感動を素直に表現した作品が入賞につながりました。

ただ、今回の傾向として残念だった点は、感動の高まりが欠けていることでしょう。それは、特に高学年以上に多くみられ、感動の高ま

●最優秀賞受賞作品●

メジロのゆう気はすごいな

宮城県中新田町立中新田小学校

二年 鈴木 崇洋

きょう、いつも行っている羽場のぞう木林へ虫とりに行つた。虫をとるじゅんぴをしてそつちへ行こうとすると、とつぜん鳥が、なにかおきたようなうるさい声で鳴きはじめたので、ぼくはびつくりして立ち止まった。目を大きくして、いきを止めて前のほうを見た。

二羽の小さな鳥が木の下のえだからえだへ、はからはへ、なにかをさがすようにさわぎながらとび回っていた。黄みどりっぽい体に、黒くてまんなまるい目。目の回りが白くふちどりされているので、すぐメジロだとわかった。スズメよりちょっと小さくて、スマートな鳥だ。

そばにいたお母さんもいっしょに立ち止まって

り」を表現することが、心の説明」となつてしまったようです。

また、書き出しは非常におもしろいのですが、途中から息切れをしている作品が目立ちました。書くことを急がず、じっくり組み立てを考えることに心がければ、さらにすばらしい作文が生まれるでしょう。次に期待します。

しまった。

「めずらしいね。どうしたのかな。こんなに近くで鳥を見るのはじめてだね。にげないよ。」とお母さんもふしぎがる。

(もしかしたら、赤ちゃんでもいるのかな)

ぼくはそう思いながらキョロキョロした。

「あつノ赤ちゃん」

ぼくは思わず、でかい声を出した。茶色の杉つばとみどり色の草の中に、見えたりかくれたりしている小さなメジロの赤ちゃんがいた。ぼくはいそいで近よって見た。にわとりのたまごぐらいのちっちゃな、ちっちゃなメジロのヒナだ。さいしょ、おがはえてなかったたので、体が半分しかない鳥のようでドキッとした。

ぼくが手をだすと、ピョン ピョン ピョンとにげた。すぐつかまえることはできるけど、さわるこわれてしまいそうな赤ちゃんなので、なかなかさわれない。二羽の親のメジロはかくれなが

作文部門

■最優秀賞

「メジロのゆう気はすごいな」(宮城・中新田小二年) 鈴木崇洋

■優秀賞

「おばあちゃん」(愛知教育大学附属岡崎小一年) 加藤奈緒
「おまわりさんとわたし」(広島・熊野第三小二年) 富永有美
「すき通った目と心」(東京・桐朋小五年) 船水陽子

■優良賞

山中香織(東京・中台小二年) 佐々木麻子(岩手・青山小二年)
小原芳寿(愛知・蒲郡南部小五年) 斉藤留美(岡山・清心中一年)

■佳作

吉本ちづる(宮城・古川第二小一年) 伊藤崇(宮城・古川第二小三年) 黄木信太郎(愛知教育大学附属岡崎小三年) 市川ヒロ子(愛知教育大学附属岡崎小三年) 早坂匡弘(宮城・古川第二小四年) 高橋誠(岩手・片寄小四年) 岩崎卓(岐阜・本田小四年) 藤原麻季(大阪・金岡小五年) 萩元宏美(鹿児島・羽島小六年) 田中里美(新潟・相川小六年) 小川知子(広島・観音小六年)

読書感想文部門

■最優秀賞

「やさしいたんぽぽ」を読んで(大阪・南田辺小二年) 忠田 愛

■優秀賞

「大仏建立物語」を読んで

「桜草をのせた汽車」を読んで(愛知教育大学附属岡崎小五年) 柵木良子
「優良賞」(愛知教育大学附属岡崎小三年) 信田亜希

■佳作

大脇業穂子(愛知教育大学附属岡崎小二年) 西野公徳(千葉・中山小三年) 高須美和(愛知教育大学附属岡崎小四年) 牧野謙(愛知教育大学附属岡崎小五年) 勝山友美(千葉・中山小五年) 鹿野周子(福島・下川崎小五年) 吉川真理(山口・山の田中二年) 岡部雅彦(山口・山の田中二年) 岩島佳衣(岐阜・稲津中二年) 大橋美保(千葉・根本内中二年) 高原佐知(岡山大学教附属中三年)

習字部門

■最優秀賞

■優良賞

「北風」(岩手・鶴岡小五年) 長内智恵子
「そよかぜ」(福井・武生西小二年) 金子佳世
「飛行」(福岡・中島小六年) 坂井るみ

ら近づいてきたり、ないたり、ますますうさくなった。でもぼくはあんまりかわいいのできわめてみなかった。

思いきって、そと手をまるくして、メジロの赤ちゃんをだきあげた。かい鳥のようにおとなしくて、毛もつやつやで、もじゃ、もじゃしてあたたかかった。

「かわいい。かわいい。」

と、ぼくとお母さんはなんとも言った。

でも、親鳥があまりさわぐので、そととこの場所においた。

ところが赤ちゃんは、お母さんメジロのほうにいかないで、ぼくのほうにピョン、ピョンとんできてピタリととまる。ぼくたちは

「かわいい。かわいい。」

と、また見とれてしまう。

「もう、来ちゃダメだよ。」

と、いいながら、しずかにすくい上げて親鳥のほうへおいてあげた。すると、またピョン、ピョンとぼくのところにくる。

「たかひろ、だき上げてしまったから、お母さんとまちがえちゃったのかな。」

と、お母さんはまじめな顔でいう。

ぼくはもつとだきたかったけど、しんばいしている親鳥がかわいそうなので、また、そとにおいて、こんどは、走ってにげてとおくから見ている。すると赤ちゃんメジロは、ピョン、ピョン出てきて道のどろの水たまりに、ドボンとおちてアップ、アップしてしまった。ぼくはびっくりして走っていったらひとり、もがきながらはい上がってき

た。こんどはじつとして動かなかった。ぼくはかぜをひいたら大へんど思い、体をかみでふいてあげて、また親鳥のほうへおいてきて、ずつと遠くから見ていた。

すると、親鳥はしばらく回りをうるさくともんでいたが、そのうち、お母さんメジロが口ばしに小さな木のみをとってきて、赤ちゃんメジロの口のほうへもっていった。赤ちゃんメジロはうれしそうに首をのびしてエサをもらった。こんどはお父さんメジロがエサをはこんできた。そして赤ちゃんの口のほうへもっていったら、また首をのびしてエサをもらっていた。ぼくはホッとした。

（もう、だいじようぶだなあ）

と、思っ、あん心してかえってきた。

あのメジロのお母さんとお父さんは、子どもをまもるのにひしひしだった。自分たちはどうなっても子どもをまもうとしていた。お父さん、お母さんって強いなあと思った。

空をじゆうにとんでいる鳥も、赤ちゃんの時、ああいふうにそだてられるのかなあ。

それにしても子どもをまもる、メジロのゆう気はすごいなあと思った。

選

評

メジロを見つけてからの心の動きがよくわかる。観察力があり、それらがきめ細かい描写で表現されている。文章力のある、優れた作品。

読書感想文部門

総評

今回は、全学年を通して力作が集まり、審査会は大激戦となりました。

ふだんの生活の中で、より多くの本と出会い、自分にぴったりの本を見つけている作品が入賞に結びついたようです。

読み手の心を打つ読書感想文を書くには、自分にあった本を選ぶことが大前提となります。

最優秀受賞受賞作品

「やさしいたんぽぽ」を読んで

大阪府東住吉区立南田辺小学校

二年 忠田 愛

わたしは、この本が大好きです。何でも、何でも読みました。そして、読みおわったら、いつも、あたたかい気持ちになれるんです。

本には書いてなかったけれど、この女の子は、きつと、どこかで、この白くて、かわいい子ねこをひろって、おうちへ持って帰って来たんだ、と思います。そして、ニコニコして、お母さんに聞きました。

「この子ねこ、おうちで、かってもいい？」

でも、お母さんは、

「だめよ。うちでは、かえないわ。さあ、ねむっているうちに、早く野原にすてきなさい。」と、女の子の気持ちを考えずに、いいました。

その上で、深い読みこみが必要で、

最近の傾向として、安易に本と「私」や「私の生活」と結びつけた作品が増えてきている。か注意すべきことは、本の内容からあまりにもかけるなれないことでしょう。

みなさんが、たくさんすてきな本と出合うことを期待しています。

女の子は、子ねこをエプロンにくるんで、しかたなく、野原へ行きました。だけど、どうしても、すてる気になれません。そのうちに、日がくれてきました。野原には、もう、だれもいません。わたしは考えました。

（もし、この女の子が、やさしい心をもった子でなかったら、ここで、子ねこをすてしてしまうわだって、もうすぐ、まっくらになるし、それに、あまりおそく帰ったらきつと、お母さんに、しかられるもの。）

でも、女の子は、子ねこをすてることが、できませんでした。わたしは思いました。

（この子は、ほんとうに心のやさしい子なんだ。自分のことより、子ねこの気もちを大切に、思いやりのある子なんだなあ。）

そう思うと、わたしは、この女の子のことが、とっても、すきになってきました。

そばで見ていた、たんぽぽさんも、きつと、わ

「白衣の天使」

（岐阜・東部中一年）高木美香子

■優良賞

白石和久（福岡・藤吉小一年）江頭絵美（佐賀・南川副小三年）下川千恵（福岡・下妻小五年）古賀麻衣子（福岡・大和中一年）中山麻子（北海道・銀山中二年）

■佳作

神田葉月（広島・昭和北小一年）岡本よう子（佐賀・南川副小一年）高口英剛（福岡・豊原小三年）佐伯哲（香川・苗羽小三年）大橋和也（福岡・二ツ河小三年）内田弘高（福岡・南川副小三年）村岡優子（山口・三浦小四年）白石鮎美（福岡・藤吉小四年）土屋隆（山梨・中道北小六年）白石由香里（福岡・藤吉小六年）

絵日記部門

■最優秀賞

「夏休みだいすき」

（東京・山王小二年）長谷川 文

■優秀賞

「絵日記」

（群馬・第二小第一分校一年）高澤裕輝

「おもいで」

（福岡・大城小一年）武本京子

■優良賞

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

■佳作

「おもいで」

（宮城・遠見塚小二年）加藤智里

たしと同じ気持ちになったんだ、と思います。女の子のやさしい気持ちが、たんぼぼさんに、つたわってきて、おうえんしてあげたくなってきたんだ、と思います。

だから、野原にさいていた、たんぼぼさんが、いっせいに、きいろいあかりをつけたんだ、と思います。そして女の子にいました。

「わたしたちは、やさしいたんぼぼです。」

ここから、女の子とたんぼぼさんが、お話をはじめます。さいしよに読んだ時は、人間とお花が、どうしてお話することができなのか、ふしぎで、ふしぎで、しかたありませんでした。でも、何でも、何でも、くり返して読んでいくうちに、少しずつ、わかるようになりました。

それは、口と耳をつかって、お話するのではなくて、心と心で、お話していることが、わかったからです。この女の子には、やさしい思いやりの心があったから、やさしいたんぼぼさんと、心でお話することができたんだ、と思います。

たんぼぼさんは、女の子にいました。

「子ねこに、わたしのミルクをあげましょう。わたしをつんでごらんさい。」

女の子は、花をつんだら、花はしんでしまう、と思いました。だから、ためらいました。

たんぼぼさんは、また、いいました。

「花はやさしい心でいる時、つみとられても、しにません。」

わたしは、このことばのいみが、はじめ、よくわかりませんでした。でも、本に、

「女の子は、たんぼぼさんを、そっと、つみまし

た。すると、つみとった、きり口から、まっ白いミルクが出てきました。そして、子ねこは、おいしそくに、たんぼぼさんのミルクをのみました。」と書いてあるところを、何でも、何でも読みました。そして、やっと、わかりました。

やさしいたんぼぼさんの気持ちが、白いミルクといっしょに、子ねこの体の中に入っていたんです。だから、たんぼぼさんがつみとられても、たんぼぼさんのやさしい心は、子ねこの体の中で、いつまでも、いつまでも、生きているんだ、と思います。

女の子のやさしい心が、たんぼぼさんにつたわり、そして、こんどは、たんぼぼさんから、子ねこに、やさしい心がつたわっていったんです。

わたしは、この本を読んで、やさしくて、思いやりのある心は、つきから、つきへと、どんどんつたわっていくものだ、ということも教えてもらいました。

そして、わたしが、この本を読みおわったあとで、いつも、何か、あたたかい気持ちになるのは、きつと、この「やさしくて、思いやりのある心」が、わたしにも、つたわってきているからなんだ、ということも、わかりました。

わたしも、この女の子や、たんぼぼさんみたいに、やさしくて、思いやりのある心を、自分の中に、しっかりと、もちつづけて、こんどは、おうちの人やお友だちに、このやさしい心のわを、大きく、大きく広げていくことができれば、どんなにすばらしいだろう、と思っています。

習字部門

総評

今回は、全体的にお手本の通りに書くようにして勢いが欠けてしまったものの、技巧的にまとめたものが見られました。

特に低学年では、力強さ、大胆さが足りないように思われます。

比較的、高学年にのびのびとした作品が見られ、言葉として情感が伝わってくるようなすばらしい作品が目を見ました。

一つのワクにとらわれず、自分自身の感情を訴えるような個性のある作品が今後数多く寄せられることを期待します。

最優秀賞受賞作品

「北風」

岩手県滝沢村立鶴飼小学校
五年 長内智恵子

絵日記部門

総評

今年は子ども自身、楽しんでいることが感じられるユニークな作品が数多くそろい、審査は大激戦となりました。その中で、絵の色彩や構図、ページごとに工夫をこらすなど、自分の感覚を十分に生かした作品が入賞につながりました。

絵日記は、絵と文章のバランスが大切です。それぞれに自分の気持ちをよく表わした力作をこれからも期待します。

最優秀賞受賞作品

「夏休みだいすき」

東京都大田区立山王小学校
二年 長谷川 文



中村俊介、中山勝二「魔法のリング」(東京・宮前中二年) 栄田里実、立川港、三木京、中山正夫

理科部門

最優秀賞

「わたしとアゲハ」

(京都・錦林小四年) 野村 愛

優秀賞

「かたつむり」

(岐阜・長良西小一年) 村瀬量哉

優良賞

「あまがえるのかんざつ」

(岐阜・長良西小一年) 岡田安紀子

佳作

「アゲハはどこから？」

(岐阜・長良西小四年) 堤 浩文

優良賞

「カイワレダイコンとガーデンクレスのかんざつ」(岐阜・長良西小一年) 後藤美奈子「ろうそくの研究」(岐阜・長良西小五年) 番場美博「長良川の石」(岐阜・長良西小五年) 杉山康介「鉄はどんな水で早く錆びるか」(東京・宝仙学園六年) 門上詩織「モンシロチョウは何月が好き」(鹿児島・名瀬中一年) 久留辰也

佳作

「ようちゅうからちようになるまで」(神奈川・松林小一年) 村瀬愛美「ほくのかいこちびくろとそなた」(岐阜・長良西小一年) 早矢仕拓見「甲虫あつめ」(宮城・中新田小二年) 鈴木崇洋「ざりがにのけんきゅう」(岐阜・長良西小二年) 嶋英里奈「おたまじやくしはカエルのか」(岐阜・長良西小二年) 徳永亮平「アリのかんざつ」(愛知・山之手小二年) 黒田夏代「ありとなかよし」(愛知教育大学附属岡崎小二年) 中村尚暁「ヘチマのかんざつ」千葉・鴨川小三年) 千葉茂人「海で拾った貝」(福岡・吉田小三年) 尾竹秀恵「はくたちのくらしと公害」(神奈川・東海岸小六年) 岡野孝寛、中野哲郎、榎本教範

図書・絵画部門

最優秀賞

「学校から見たふうけい」 (青森・吹上小四年) 山本由紀

優秀賞

「みんなとごはんをたべる」 (奈良・斑鳩小一年) 山下貴広

優良賞

「夏休み」 (北海道・日新小六年) 赤塚弘樹

佳作

「干物を作る母」 (青森・三沢第一中三年) 前川原由利子

優良賞

眞鍋泰兵(福岡・大城小二年) 福田学(宮城・聖ドミニコ学院小三年) 森高悟史(広島・昭和北小四年) 松原英暢(愛知・連尺小五年) 関根崇博(埼玉・古谷小六年)

佳作

大石愛子(岐阜・長良西小二年) 富山知香(茨城・板橋小二年) 和田秀夫(神奈川・幸町小二年) 佐々木亜聖(宮城・中新田小四年) 城井田竹栄(青森・吹上小四年) 山田聖(宮城・中新田小五年) 原幸子(広島・昭和北小五年) 別所大伸(埼玉・牛子小六年)

鶴川博美(青森・三沢第一中三年) 村岡志穂(青森・三沢第一中三年)

技術・家庭科部門

最優秀賞

「小麦の追求」 (岐阜・境川中二年) 馬場綾子

優秀賞

「春日村の四季」 (岐阜・春日小五年) 川村智香

優良賞

「野菜のヒミツ大特集」 (岐阜・誠之小六年) 石橋恵美

佳作

「包丁大研究」 (東京・誠之小六年) 埜崎直哉

優良賞

河野純子(岐阜・長良西小五年) 金川由かり(千葉・我孫子第一小六年) 市川愛(東京・誠之小六年) 森範行(岐阜・春日小六年)

佳作

浅野恵子(岐阜・境川中二年)

優良賞

糸谷謙一(兵庫・浜山小一年) 鍋島梨恵(兵庫・浜山小一年) 滝澤千恵(兵庫・浜山小二年) 小川恵里果(愛知教育大学附属岡崎小四年) 田中智子(東京・高井戸小五年) 小島光広(愛知・棚尾小五年) 藤田恵美(岐阜・春日小五年) 荒川潤子(東京・誠之小六年) 志村恭子(東京・誠之小六年) 牧野七緒子(東京・高井戸小六年)

佳作

文部大臣奨励賞

特別賞

「祖母の闘病生活観察日記」 (京都・光華小四年) 泉 康介

学校賞受賞校

愛知県・愛知教育大学附属岡崎小学校

優秀学校賞

岐阜県・岐阜市立長良西小学校

優良学校賞

宮城県・中新田町立中新田小学校

学校奨励賞

東京都・杉並区立宮前中学校 文京区立誠之小学校

優良学校賞

青森県・八戸市立吹上小学校 三沢市立第一中学校

優良学校賞

宮城県・古川市立古川第二小学校

優良学校賞

千葉県・千葉市立みつわ台中学校

優良学校賞

東京都・大田区立山王小学校

優良学校賞

岐阜県・春日村立春日小学校 岐阜市羽島郡柳津町中学校組合

優良学校賞

立境川中学校

優良学校賞

静岡県・静岡市立安東中学校

優良学校賞

岡山県・岡山大学教育学部附属中学校

優良学校賞

福岡県・大野城市立大城小学校